

中3公民授業「私たちの住む三重県 ～住民にとっての地域～」

—中1地理授業「私たちの住む三重県」の実践^{*1}を受けて—

藤 森 秀 明*

本論文は、2005年2月から3月にかけて、三重県伊賀市立丸山中学校でおこなった実践報告である。

I 中学1年地理学習「三重県の地域的特色」と 中学3年公民学習「住民にとっての地域」

多様な情報・価値観が氾濫する現代社会に対応する生徒を育成するためには、言葉としての知識の獲得だけでなく、学び方を学ぶこと、つまり知識を取捨選択し使いこなす能力、「生きる力」を身につけさせることが必要である。しかし、ややもすれば中学校社会科の授業では表面的な知識の教授が中心となる傾向が多く見受けられる。そこで本単元では、生徒の興味関心にもとづいた話し合い活動や調査活動を大切にする中から、言葉としての知識を獲得するだけでなく、学び方を学び、知識を応用して生かすことができるような授業の実践、「生きる力」の育成をめざしたいと考える。

平成10年12月文部省告示中学校学習指導要領（以下、学習指導要領とする）の地理的分野の目標に「地域的特色をとらえるための視点や方法を身につけさせる」「各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる」という記述がある。そこで「中1地理的分野」の実践では、「三重県は近畿・関西か中部・東海か」についての話し合い・調査する過程の中で、伊賀地方の特徴や住民の思いを切り口として、三重県の地方的特殊性と一般的共通性をとらえさせることを主眼において、学習指導要領の目的を実現するための指導のあり方についての研究を進めた。

学習指導要領の公民的分野の目標には「民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会のかかわりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる」という記述がある。そこで今次研究「中3公民的分野」の実践では「中1地理的分野」で話し合いの切り口となった伊賀地方の住民の思いと2004年11月の伊賀市誕生を教材として住民にとって望ましい地方行政のあり方について考え、話し合うことを中心とした授業を構成した。義務教育を終え、これから現代社会を生きていく中学校3年生に、身近な社会集団の形成や社会生活を円滑に営むための基本的な考え方についての学習を通して、個人と社会のかかわりについての見方や考え方の基礎を養い、学習指導要領社会科の目標である「国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことをめざした。

II 教材について

<市町村合併「伊賀市の誕生」>

市町村合併する自治体への優遇措置を定めた特例法の下、「平成の大合併」が全国各地で推し進められた。特例債欲しさの合併ではないかとの批判もある中で、全国に約3200あった自治体が合併により約2000となった。この動きのなかには将来さらなる行政のスリム化をめざした道州制導入も念頭にあるという。

なかでも長野県山口村が県をまたいで合併し、岐阜県中津川市に編入されたことは、昔からの木曾の国としてのつながりよりも、日常生活におけるつながりを重視したものとして注目を集めた。

*三重県伊賀市立霊峰中学校

三重県でも10の合併が計画・実施された。そのような中、当地でも2004年11月、上野市・伊賀町・島ヶ原村・阿山町・大山田村・青山町が合併し、伊賀市が誕生した。名張市をのぞいて、伊賀地方がまとまることになった。

中1の時に学習した「三重県の地域的特色」の授業で、生徒たちは「三重県は近畿・関西か中部・東海か」について話し合う中で、「住んでいる人が納得できる」ということにこだわった。このような生徒たちが義務教育を終えこれから現代社会を生きていこうとする中3の3学期、中学校最後の授業単元として「私たちの住む三重県～住民にとっての地域～」を設定した。地方自治についての学習を基礎としてふまえた上で、今回の市町村合併と伊賀地方の住民の思いをもとにして考え話し合うことを通じて、住民にとって望ましい地方行政のあり方を追求しようとした。

Ⅲ 生徒について

<中学3年公民的分野「住民にとっての地域」の学習にあたって>

中1での学習を終え、生徒たちの三重に関する認識は、自分たちの住む伊賀地域から三重県全体を見渡せるようになってきている。と同時に、地域分けにこだわるよりも、住んでいる人の考えが大切であるという考え方を持つようになってきている。

さらに、中3になってもものごとを見る視野が広がった生徒たちに対して、今回の市町村合併と伊賀地方の住民の思いをもとにして、住民にとって望ましい地方行政のあり方について考え話し合うことで、中学校社会科の目標である「公民的資質の育成」をめざしたいと考えた。

この合併に関して生徒にアンケートをとったところ、疑問として「合併しても変わらないのではないか」「合併の本当の理由は何だったのか」が多くあげられた。また、大切にしたいことでは、「住民の意見を取り入れながらにして欲しい」「伊賀市になっても各地の文化を大切にしたい」といった趣旨の意見が多かった。また、「東海地方じゃなくて関西地方になることを期待する」という将来の道州制を意識した意見もあった。

そこで授業では、市町村合併の理由、そして合併に対する思いや将来実施が予想される道州制について話し合わせることを契機として、中1での学習で話し合った思い「住んでいる人が納得できる分け方をして欲しい」を切り口にしながら、地方自治で大切にしなければならぬことは何かを考えさせた。そして、地方自治を自分たちの身の回りのこととして実感させると同時に、地元に対して誇りと愛着を持てる生徒を育成しようとしたのである。

そこで授業では、市町村合併の理由、そして合併に対する思いや将来実施が予想される道州制について話し合わせることを契機として、中1での学習で話し合った思い「住んでいる人が納得できる分け方をして欲しい」を切り口にしながら、地方自治で大切にしなければならぬことは何かを考えさせた。そして、地方自治を自分たちの身の回りのこととして実感させると同時に、地元に対して誇りと愛着を持てる生徒を育成しようとしたのである。

Ⅳ 授業のようすと授業分析

(1) 指導の構成 (計5時間)

第1・2時

平成の市町村合併の理由はなにか

第3・4・5時

住んでいる人が納得できる地方自治とは

(2) 授業の流れ^{*2}

<第1時>

<導入……市町村合併>

伊賀市の市章を提示「このマーク知っている人」「どこが合併したの」
→上野市・伊賀町・阿山町・青山町・島ヶ原村・大山田村

<展開①……合併の理由>

話し合い「この合併について思うことは」

YS「誰が合併を進めたのか」「合併する意味は何か」

FM「何のために合併をしたのだろう」

→いいようにしてくれたらよい (MY)

都会になる (MA)・土地人口が増える (HH)

国から金がもらえる (HT)

経費が削減できる (FK)

小さな町ごとでお金を使うよりも有効に使える (HT)

↑

村々によって考えが違う (YS)

町ごとの方がよい (YS)

合併がいやな人もいないのか (MY)

←YS「合併をいやがっていた人の理由は何か」

上野市ならではの歴史がある、町としての伝統がある (MY)

最近では合併ばかりだ、長野では県を越えて合併している (FK)

小さい町が独自で発展するのは難しい (HH)

YS「合併しての発展ってなんだろう」

MY「合併しての発展と今までの村おこしの違いは何か」

<第2時>

FY「合併の本当の理由は何やったのか」
 別々の市町村よりは一つの市にした方が全体的に安くつく (HT)
 ←FY「もっと他にないのか」←他にないかあるのか (HY)
 話し合い：[村々によって考えが違う]vs[小さな村が独自で発展するのは難しい]
 小さな村のままでよい (YS) ←地方の特色をだすことで活性化する (HH)
 合併しても歴史文化を大切にしたい (MY)
 合併は歴史文化を大切にすることにつながるのか (HY) →
 伊賀上野としての文化を大切にしたい (MY) →
 ←上野は上野だ (YS)
 小さな村では収入が少ないから発展の可能性が少ない (HY)

FM「合併しても変わらないのではないか」
 HM「合併して発展したところはあるのか」
 提示：新聞記事「平成の大合併」
 お金欲しさの合併もある (HH)
 反対もあるようだ (YS)
 道州制を視野に入れている、県同士の合併も考えている
 → (1年次の学習を思い出す)
 三重は近畿か東海か？
 伊賀は関西？
 住んでいる人が納得できる分け方をして欲しい (FM)

→いやな人は引っ越せばよい (YS)
 ←それこそ住民の意見を無視している (MY)
 =「道州制で三重は近畿関西か中部東海か」
 →土地は好きだ (愛着) でも名前が欲しいと言うことだ (HH)
 →土地は嫌いというわけではない (HY)

<第5時>

<まとめ…郷土への思い>

MA「どうして名前が欲しいのかな」
 自分が生まれたところを嫌いな人はいない (HY)
 名前というよりはそこ環境に愛着がある (FK)
 生まれ育ったところだから愛着はある (FM・TK・HY)
 前に住んでいたところも今住んでいるところも、その文化が好き (HM)
 長く住んだところに愛着はある (NM)
 山や田があって好き、住んだところに愛着がわく (FY)
 ……
 「三重は近畿関西か中部東海か」
 東海になったら近畿に入れてっていう (NT)
 どちらにもいいところがある (OA)
 親しみを感じている方に行ったらよい (FY)
 名前にいい悪いはないけど、そこに住んでいる証として名前が欲しい (FM)
 名前がなかったらいやだ (IM)
 名前がなかったら住んでいるという気がしないから、名前が欲しい (MR)

<第3時>

<展開②…納得できる分け方>

話し合い：住んでいる人が納得できる分け方について
 どうやったらよいかアンケートをとりよう (HH)
 不満な人の意見はどうするのか (YS)
 みんな考え方が違う (MY)
 三重を2つに割ろう (MT)
 納得いく分け方はできない、自分の思いでよい (HT)
 2つの割ることは境がややこしいからできない (HH)
 住んでいるだけだからどうでもよい (MY)

提示：山口村 (長野県から岐阜県へ)
 賛成
 岐阜の方が便利だから良い (HH)
 日頃よく行く都市に税を使って欲しい (NM)
 他にもそんなところありそう (FK)
 反対
 みんな面倒を見ていたら大変
 ある場所はいつしよなんだから変えなくて良い

(3) 授業記録

以下は、第2・4・5時の授業の全発言記録^{※3}である

① 第2時の授業記録

- 1 T 今日です、ちょっと復習から入っていききたいと思います。こんな疑問がありました。FYさんですけども、合併の本当の理由は何やったのか。どうですか。
- 2 YS お金のため。一つ一つの市に与えるよりも一つの市の方が全体的には安くつくから。
- 3 FY それもあると思うけど、もっと他に何かあるかなと思って。
- 4 T じゃ、その辺も含めて考えていききたいと思います。で、今日何するの。何が話題になった？
- 5 FK じゃ、覚えてない？「村によって考え方が違う」というのと
- 6 T だから、合併しない。
- 7 YS 合併する。
- 8 FK ほうが良い。
- 9 T どんな意見あった？
- 10 HH 俺、いったやつ。ちっちゃい町でも。小さい町が発展するのは難しい。
- 11 T もう一つ。お金の問題。(「税を有効に使える」と書いた紙を貼りながら)
- 12 T しばらく時間をおいているんで、記憶がとんでいるかもしれないけど。
- 13 YS 税を有効にしているってけど、借金しての、返さなアカんのにそんな有効にかいてられへんやん。それと発展し続けたら緑がなくなっていくと思う。すべてがすべて発展していったら森なくなるやん。
- 14 MY 前、うち言ったけどさ、発展っていうのと村おこしというのがもし一緒のことなんやったら、発展の仕方にもいろいろあるやん。緑が減らへん発展の仕方というのものもあるかもしれへんやん。だから緑が減るといっただけでいいのは無理矢理かもしれへん。
- 15 YS それには限度がある。緑を減らさんように発展しても、まわりに緑があるん

<第4時>

話し合い：[住んでいる人が納得できる分け方をして欲しい (FM)]
 vs[住んでいるだけだからどうでもよい (MY)]
 文化を大切にすべき (YS) →
 日常生活 (文化・交通) を考えて分けたい (TK) →
 ←住んでいる人がみんな納得するような方法はなかなかない (HY)
 ←関西だけでなく東海の文化もあるわけだからどっちに決まっても良い (MY・HS)
 そういう動きがあるのだからどちらでも良いということはない (YS) →
 → 一人でも多くの人の意見を反映したい (HH)
 少数意見も反映したい (MA)
 住民や全体にとって一番良い方法はないのかなあ (MR)

やから緑が減ると思う。煙とかで。

16 T これってそういうことか。小さな村が発展していくのは緑がなくなっていくということか？

17 HH 違うし。別に緑は減らさんでいいやん。組紐作るんやったら何も緑減らへんやん。それで金儲けしたら発展するやん。

18 T 村おこしの発展。

19 HH そうそう。地方の特色を出すみたい。そしたらもっと活性化する。

20 MT 発展したらお金が増える。

21 YS 組紐ぐらいやったら小さい村でも作れるのと違うの。だったら、小さい村でも大きい村でも組紐ぐらい作れるやん。

22 T だから小さいままでいいと。

23 HY 小さい村に入ってくる国からの資金は少ないから。大きい市とか町やったらそういう発展する可能性みたいなものがあるから、いっぱいお金もらえたり、お金が良く回るから、ちゃうの。

24 YS 組紐からどう発展するのか。信楽焼からどう発展するのか。

25 HH 売ったらえーやん。

26 YS 売るのが発展なん？

27 HH 作るには金が欲しいやん。

28 T 歴史・文化を大切に、前も言ったやん。かたやき・忍者・組紐はそんなに大事なんか？

29 T どっちがえーの？

30 FM 合併しても変わらへん。だから発展もしーひんし。

31 HY 合併して歴史とか文化どうなるの、良くなるってことなん？伊賀市になったら上野という名がなくなるわけやん。なくなったわけやん。だから歴史とかがかわってしまうのかなって。

32 YS 合併して歴史・文化って変わるの？変わらへんて。

33 HH 俺、変わらと思う。名前の歴史が変わる。気持ちの問題。

34 YS 何が気持ちやねん。

35 MY 他の所からみたら名前が変わっただけで、歴史は続いていると思うやん。でも伊賀上野としての文化はもうなくなっちゃうわけやん。そっからは伊賀市としての歴史なんやん。私としては伊賀上野の歴史のまま続けたい。九州のほうで市の名前がついた名前があって絶やすことはできひんとかいって裁判かなんかなって、お年寄り歴史派で若い人は合併してもえーんちゃうのって問題になった。

36 YS 伊賀市の上野やんな。歴史変わるとか関係ないやん。上野は上野や。

37 T 上野は上野やったら合併してもいいということや。話が変わってきたな。

38 YS 合併しやんでもいいけど、歴史どうのこうのっていうのは間違っていると思うねん。

39 MY 合併して何年も経てへんの、どうのこうの言えへん。何年も経って発展なければゆえーし、発展あればそれでえーやん。

40 HM 合併してるとこって発展してるの？

41 YS 発展するわけないやん。

42 MY 合併したっていう事実があるだけで、今までやってきたこととそんなに変わってない。

43 T 結局、これが、合併の本当の理由ってこれか？金か？これか？これで結局、FMさんの意見がやな。これがこうしてこちらへびつとって、これで終わりか。

44 HY お金か。

45 T それじゃ、これはどーでもええんか。

46 HY 他に、なにかあるのかよくわからん。

47 T 他に何かあるのか？

48 YS 他に何かあるのかを考えるのが、HY君の仕事。

49 T これから考えていくのがみなさんの仕事やな。ちょっとな、正月に朝日新聞にこんな記事があった。1年生の時のこととちょっと関係するんで持ってきた。(記事配布)

50 IM (記事を読む)

51 OA (続けて記事を読む)

52 HH やっぱ、お金欲しさの人もいる。

53 YS 反対する人も結構いた。

54 T 懐かしいものなかつた？1年生の時のこと思い出してもらおうと思って持っ

てきたのに。

55 HY 道州制って書いてある。

56 T なんやったら道州制って？

57 HH 県同士の合併とか。

58 T これについて1年の時にみんなで話し合ったこと、みんなに言って、何が話題になったんやな。

58 FM 三重県が中部と近畿の境目にあるやんか。それで住んでいる人が、津とかやったら中部やけど、ここらやったら近畿やんか。ほんでどっちがいいか。

59 T 覚えとる。

60 S 思い出した。

61 YS 名古屋向きか大阪向きかという話やろ。山で別れているとかという話やろ。

62 T 伊賀は？合併する時どうするって話あったやろ。

63 YS 山の左勝手は関西で、右勝手はあれやっせん。

64 T 分けよって話になったんか。

65 S うううん。

66 S なってたよ。

67 S なってないし。

68 T 分けよって話も一時はあったよね。

69 HY 川があつて。

70 MY 他の学校にもやな。

71 T だから、私は最後これやりたくってずっと待つとったんや。

72 S 3年間、うわつ。

73 T このこと、1Aの人覚えとるかな。FMさんとDAさんが言ってたんやけど。

74 S あー、言った。言った。

75 T これ関係してくるしよ、これと今の合併の問題とき。

76 HH 関係あるね。合併だつてさ、住んでいる人が納得いけばいい。

77 HY 難しいな。

78 HH アンケートとればいい。

78 T ちょっと、考えてみてください。で、今日はここまでにしたいと思います。今から、合併および納得できるということについて、考えを書いて欲しいと思います。

②第4時の授業記録

1 T 前回、話し合いがだいぶ混乱してきました。今日は一つのことしほぼって話し合いをしてもらおうかと思っています。
内容は、FMさんが前からこだわっている「住んでいる人が納得できる分け方をして欲しい」ということともう一つは前回出てきたMYさんのこんな意見「住んでいるだけだからどうでもいい」というこの意見、これについてみなさんの話を聞いていきたいと思っています。

2 YS 住んでいる人はどうでもいいというのは、間違っていると思う。文化とかあるやん。MYさん好きな文化やで、文化とがどうでもええことないやん。土地によってあるやん。食べ方とかテレビとか。

3 T HY君、前回休んでいたけど何か質問ありますか。

4 HY どうでもいいというのはちょっと言い過ぎかもしれんけど、住んでいる人がみんながみんな納得できるような方法はなかなか無い。

5 TK 前言った同じ考えで、みんな同じ考えで分けたら難しいと思うけどさ、だから交通とか文化とか日常生活を考えて分けたい。

6 FK 三重は近畿関西とか中部東海？

7 T あー、こっちの話題。これも絡んでくるけどな。

8 HY 三重は近畿関西かということも絡んでくる

9 FK 道州制で分けたらよい。

10 T あー、道州制。

11 YS 道州制やん、なー先生。

12 T これも絡んでくるな。

13 HH 一人でも多くに人の意見を反映してもらう方がいいと思う。

14 T なんか、こっちの意見ばかりなんやけど、MYさんどうですか。

15 MY たとえばやけど、YS君が文化って言ったやん。たとえれば関西の方の文化が多かつたとしてもやで、関西と東海で分けるんやったら、中には東海の文化

も入っているやん。だから私的にはどうでもいいというか、どっちでもいいと思うねん。だってテレビで言うんやったら東海のテレビも見れるしさ、関西のテレビも見れるしさ。だからどっちに決まってもいいんではないかっていう意味やっけんけど。

16 YS 先生、質問していい？あのおさ、道州制とかそういうのってさ、やろうという動きはあったん、既に？

17 FM ある。

18 YS じゃあさ、反対している人とかいるんやろ、道州制やるんやったら三重県に、反対している人がいるんやったらどうでもよくないってことやん。理由があるからやろ、だからどうでもよくない。

19 MA みんなが納得できるってできひんから、できひんと思うから、決め方はまあ何でもいいけど、少数の人の意見も反映したらいと思う。

20 T で、どうしよう。少数意見を反映してどうしていきましょ？

21 MA どっちは我慢したらい。

22 YS 我慢しやなあかんの。選挙とかそういう系で決まると違うん。

23 FK 少数意見とか反映されへん。だからもう分けやんでいいのと違うん。

24 YS 分けやんでいい。今そういう動きがあるねんで。

25 T HK君はMYさんと一緒。MYさんに近い意見、HSさんもだったね。

26 HS どちら意見が別れるんだから、どっちでもいい。

27 YS 人の家に工事したってさ、お金払ったらその家にだけしてもらうことできるやん。という感じの流れでさ、いやなやつはちやうとこへ引越してもらったらええんどちやうん。立ち退き。

28 T 過激な意見が出ましたが、どうですか？

29 MY それこそさ、住民の意見を無視している。無理矢理やねんから。

30 YS 引越したい人だけ。

31 MY そういう意見でえへんたら、別に引越したいという人もいいひんのと違うの。

32 FK 金払って引越させろ？嫌やっけんたら、引越せへんやん。

33 HH だからさ、引越させろのはあかんやん。

34 YS 引越したいやつだけ引越したらい。

35 HH でも、そこにいるのがええねんで。

36 MY 引越したくない人はどうするねん。

37 YS そこでも我慢する。

38 MY そら、どっちにしたって。

39 HY かわいそうやん。

40 YS だから、嫌な地域で過ごさか、引越して自分が好きな地域に行くかや。

41 T HYさんどう、今のYS君の意見？

42 FY そうしたら、反対する人もいいひんようになると思うけど、やっぱり人の意見を無視することは、やっぱりその市をやっていくんやったら、ちょっとしんどいかなって思う。

43 T 市をやっていくって、どういうこと？

44 FY あとでもめてくるやんか。だって、脅して無理矢理させるのはあかんことやし。

45 HK そんななんか、治安維持法みたいな。

46 YS だからそのお金を払ってだけてもらおうっていうのは、別れるとするやん。たとえば関西にいるとするやん。関西が嫌やっけんたら三重県人はどっか行きさって言うねん。どっか行くわっていうならどっか行ったらいいし、いやならそこで我慢する。

47 T そういうことなん。そういうことなら前みた太郎生の人いたやん。この人は名張へ入りたかった。入れなかった。そしたら太郎生から出て行けと言うことやろ。名張へ行きたかった人は勝手に名張へ行けばいいの？村を捨てて出て行けと言うことやな。

48 MY ものすごいことや。

49 FK おかしいやん。ちょっと考えよ。

50 T 名張へ出て行きたい人は出て行きさということやな。なんか変なことない？むこうに書いてあること、一番最初にYS君が言ったことと。

51 YS 文化より自分の気持が大切な人は出て行きさということ。

52 MY 合併の時に文化をばろくそに言ってたくせに今頃何を言うか。

53 T 文化どうするのさ。

54 YS やっぱ、あかん。文化は大事。

55 FK みんなに謝れ。訳わからんこと言うて。

56 HY YS君の意見は、住む人のことを全く考えていない。

57 YS うーんっ。

58 HH 合併してもさ、そこに住んでるやん。同じ所に。だからさ、土地は嫌じゃなくて、名前が欲しいだけやと思う。好きっていうか、愛着がある。名前が欲しいんや。

59 T この村は川の流れが大阪に向かって流れている。それで名張へしよつちゅうバスとかでやって来て買い物や塾とかへ行く。それでいま津へ合併をする。津市になるんやったら日頃結びつきの強い名張へ行きたいということをやった。

60 HY 長野でもそういうのあったよ。

61 T 長野のこと、まえHY君のいないときに話がすんでね。長野の話はどうなったん？

62 FK 許可出た。

63 T 長野はどうなったん？

64 HY 岐阜県。

65 T 長野から岐阜へ行ったんやな。

66 HY なんかもめっちゃ有名な人、いるんやんかな。

67 HH 誰それ？

68 HY 島崎藤村やっつけ。

69 T 島崎藤村が信州という舞台、木曾、それが岐阜になったら違うっていろいろもめたんやなこれはな。

70 T そしたら、HH君の土地は好きだ、でも名前が欲しいということや、これってさ、これやろ。《三重は近畿関西か中部東海か》を指しながら

71 S あー。同じやな。

72 T 同じやろ。これって、これちやう。

73 HY 確かに。土地が嫌いから出て行くというのは違う。

74 T 土地は嫌いというわけではない。

75 YS 別に出てかんでえーやん。

76 HH 出てかんでえーっていつてるやん。YS君一人が言ってるだけやん。

77 T もう一度、ここへ戻ってきた。三重は近畿関西か中部東海か、いろんな意見が出てますが、これから最終的にみなさんは考えていこうとするのか。それを次の時間やって終わりにしたいと思います。今日は、この辺の考えについて、三重は近畿関西か中部東海なんか、土地は嫌いというわけではない。じゃ、納得できる分け方をして欲しい、でもどちらかが我慢をせなあかんの違うか、色々もめてますが、もう一度自分の意見をここに書いてください。それをもとにして次の時間もう一度話し合って終わりにしたいと思います。

78 YS 3年間かけて、この決勝ができるねんな。

79 T 前々回の感想でこんなんありました。貼ろかな、貼らんとこかな。

80 S 貼ろ。

81 T MRさんの、「住民や全体にとっていちばん良い方法はないのかなあ」

③第5時の授業記録

1 T 久しぶりやで、まえの自分の感想見て。いいですか、思い出しました。それじゃね、今日はこれについていきたいと思っています。HH君読んでくれますか。

2 HH 土地には愛着がある。名前が欲しいということだ。

3 YS 質問。どういう意味ですか。

4 T じゃ、これについてHH君説明してくれますか。

5 HH YS君が引越したか言っていたけど、引越しはしたくない。でも名前は有名にして欲しい。税金とかは欲しいけど、引越しはしたくない。

6 T どういうこと？

7 HH 税金は有効に使いたい。

8 YS 名前のために引越すの嫌やと言うなら、違うところにも税金あるやん。

9 HY 自分が住んでいるところ嫌いという人、あんまりいやへん。名前が名張じゃないから嫌なわけやん。名前があれば問題ないやろ。

10 T ちょっと、これだけ確認しておこか。愛着ということ。

11 FK 愛着もつてるのって、名前じゃなくその環境に対してだ。

12 T 今、課題になっているのは、土地に対して愛着はある、これに対してどうかということやな。それとももう一つは名前についてはどうかということ、その土地の名前が自分に欲しいかいらんかということやな。

13 YS ようわからへん。そんな人いるん？

14 MY ほんまに嫌いやったら引っ越しているはずやん。

15 FM 生まれ育ったところやから、愛着はある。

16 TK 愛着はある。

17 HM 愛着はある。私も引っ越してきて前の所も愛着あるけど、こっちに来てその地域の特色・文化とか知って、また違う文化を知っていいなあって思う。前の所も好きやし。

18 YS 先生、俺は愛着ないで。別にどうも思わへんし。

19 T もうちょっと、聞いてみよか。NMさんも引っ越してきたよな。どう？

20 NM 私、昔住んでた所はすごい便利なところで、都市の中心部みたいところやけど、こっちの方が安全とかあんまり事件とか起きひんからこっちのほうがいい。

21 T 前の所は嫌い？

22 NM 便利やから好きやったけど、でもこっちの方が長いし。

22 T F Yさんはどう？ずっとこっちに住んどるけど。

23 FY 大きい都市とか行ったら、ビルとかばっかやん。家のまわりは田んぼとかお米とかがいっぱいで自然がいっぱいやから、だからこっしか住んだことはないけど、やっぱり私的には愛着はある。

24 T 将来どっかへ引っ越すことがあったらどうやろな。

25 FY そこに引っ越すということは、その土地が気に入ったから住むっていうことやから、住んだら愛着は出てくる。

26 YS ちょっと質問。愛着ってなんなん？

27 FK なんかさ、どっかさよその土地へ行ったら、他の土地に住んでても帰ってきたいとかいうこと。

28 S ホームシックじゃん。

29 HY 思い出の場所が長く使っているものやったら、なんかそれ以外は……。

30 HK 故郷が恋しく思うこと。

31 YS 先生、やっと思わかった。思い出のものっていう感じやな。

32 T 将来、君らがさ、ここを、地元で行く人多いけどさ、あと、就職するなり大行くなり、都会へ出てそのまま帰ってこへんことってあるやん。その時に、たとえば上野のことをどう思うかということやうん。

33 HY ○○に15年間住んでいるわけやから、違うところへ住みにいったらちょっと違和感あるかな。なんやろ、……。

34 T まあさ、将来いつか考えてみて。愛着ということについては、20年経ったときに、地元のことどう思うとかさ。どうやろな。

35 MY うちはさ、むかし○○に住んだことからさ、そっちの方が身近に感じんねんか。引っ越してきたからさ、途中から入り込めへんものが、近所付き合いの面で、しかもまわりおっさんばかりやから。

36 MA 愛着はある。

37 FK 俺あるで。

38 YS 俺ないで。

39 HY 一人だけやん。

40 YS じゃ、手を挙げてもらってよ。

41 T えーよ。愛着あるなって思う人？手を挙げて。 (ほぼ全員が挙手)
ほら、どーする。

42 T これについては、僕は君たちの心までわからんから、将来な、20年後、30年後にまた思い出してよ。
それじゃ、話戻りたいんやけどさ、名前の方な、これに戻りたいんやけどな。結局これにつながってくるんかなって思て。 (三重は近畿関西か中部東海か) を指しながら) 名前、どうなんやろ。

43 FM 私は名前が良いとか悪いとかはないと思うねんけど、住んでいる人が、たとえば近畿関西に住んでいたら、そこに住んでいる証として名前が欲しい。

44 T あなた、どっよかったんやっけ。

45 NT 近畿。

46 T 東海っていうことになったらどう？

47 NT 近畿に入れて言う。

48 T 誰に言う？

49 NT わからんけど言う。

50 MT どういうことかわからへん。

51 T もう一度説明して。

52 FM たとえば近畿関西がいいと思っている人は近畿関西っていう名前が欲しい。

53 IM FMさんに賛成。名前なかつたらいいや。

54 MR 名前なかつたらさみしいし、名前なかつたら住んでいたという感じしやんから、名前が欲しい。

55 MA 名前がなかつたらやっぱりなんか違うような気がするから、名前は欲しい。

56 T あなたはどっち？

57 MA どちらでも良いけど名前は欲しい。

58 OA 名前は欲しい。

59 T あなたはどっち？

60 OA 両方とも良いところがあると思う。どっちでも良いと思うけど、名前は欲しい。

61 HY 近畿って思ったら近畿って言うてたらいいし、中部やっと思ったら中部でいいし。

62 FK どっしかかきりさせたらいい。

63 HY だっちはっきりしてへんにやもの。はっきりしてへんにやから各々でいいやん。名前はいらんという訳じゃないよ。名前はなかつたら困るやろ。

64 FY こっちは近畿の方が近いし、近畿の方が親しみがあると思うけど、伊勢とかの方やったら、逆に東海の方が親しみやすいというところがあると思うから、親しみを感じている方にいったらいいと思う。

65 T いろいろ、3年間考えてもらいました。1年の時に三重とか伊賀とか調べたよな。いま地方自治の考え方からもう一回どうなんやろなっていうふうに考えてもらいました。どっちってわからへんし、だけど自分がこの地域に住んでいるっていうかさ、住んだというかさ、そういうことを将来振り返るっていうかさ、また今度新しい土地に住んだら住んでその土地をどういうふうに変えていこうとか、どういふふうに分たちの住む地域を良くしていこうか、そんな愛情を持って暮らして欲しいなって思うのが私の願いです。そういう部分でここに住んで愛着をもってくれている人が多いわけで、そんな愛着ずつと持って、またいつか思い出してくれたらうれしいなっていうふうには3年間授業してきて思います。
今日でもって、1年生から続けてきた授業を終わりにしたいと思います。

66 YS 三本締めしようか。

67 T してくれんの。やって。一本締め。よーおつ。 (みんなで一本締め)
最後、感想だけ書いてください。15分間あります。3年間やってきた最後なんで、今日の授業の感想なんやけど、まとめとして思っていること書いて欲しいなと思います。

(4) 授業分析

これまでの中学校社会科の授業で「めざす子ども像」を以下のように設定し、生徒が授業の過程を通じて、①の段階から②③④の段階、そして⑤の段階へと成長していくことをめざしてきた。

- ① 社会事象やその変化に興味を持ち、自ら学ぶ意欲をもって学習に参加しようとする子ども。
- ② 疑問や問題を解決したりするために資料を収集し、活用することができる子ども。
- ③ 資料を活用したり、他の子どもの意見を取

り入れたりしながら、思考・判断することのできる子ども。

- ④ 自己の考えやその変容、学習内容などを筋道だてて表現できる子ども。
- ⑤ 学習で得た力をもって社会の変化に主体的に対応し、よりよい社会を築いていくために、意欲的に考え、行動しようとする子ども。

そこで、中学校3年間の課程をまもなく終えようとする2月、これから現代社会を生きていく生徒達に対して、中学校社会科の目標である「公民的資質の育成」の集大成として、「めざす子ども像」⑤の生徒の育成をめざした。

この点について、生徒達はIV(2)「授業の流れ」やIV(3)「授業記録」からもわかるように、たとえば第4時では「住んでいる人が納得できる分け方をして欲しい。」という意見と「住んでいるだけだからどうでも良い。」という意見の対立から始まり、1年生の時から課題「三重は近畿関西か中部東海か」が自然に考える要素として加わりながら「土地は嫌じゃなくて、名前が欲しいだけやと思う。好きっていうか、愛着がある。名前が欲しいんや。」という考えに収斂していく。このように、生徒達は自ら話し合うべき課題を設定し、様々な可能性について自分の意見を持ち他の生徒の意見を聞き、その上で時には賛成意見を時には反対意見を述べながら、自分たちで授業を構成し、さらには自ら行動しようと思いを示すことができるようになってきている。このことは、以下のような単元終了後の生徒の感想からも読み取ることができよう。

FM 私は今まで〇〇以外どこにも住んだことはないけど、もし離れることになったらかなりさみしいだろうと思う。15年しか生きてないけど、私が生まれ育った所だから、めっちゃ愛着があるから。

近畿関西人でいたいので、名前はぜひ欲しい。やっぱり住民一人残らずそれぞれの意見を聞いていたら国は成り立たないと思う。だけでも少しでも尊重しようと頑張ってくれる人がいたら一緒に

頑張っていけると思う。地元は大切にしやなあかんと思った。

MY 名前が欲しいかどうかはわからない。一年の時から中立派やったから、どっちの名前になっても、私的にはあまり「ヤッター!!!」とも思わないけど、名前があることは、そんなにいいことなのか?とあまり考えたこともなかった。確かに、自分の住んでいるところが、「近畿関西やっ!!!」と思っている人は、関西やという証しもらえて、嬉しいし、住んでいる気はすると思うけど、中部東海の人からすれば、そんな名前もらっても嬉しくないし、それこそ住んでいる気がしないということにつながっていくんじゃないかと思う。

実際の所、関西区域の人から見て、三重県はどう写っているのだろうか?三重県の一方的な思いで終わっているのかな?だとすれば、関西の人達も三重県に関西に入ってもらいたくないと言う人もいるかもしれない。結局は誰かが我慢しなくちゃいけないんだから、ちゃんとした答えが出ることはないんじゃないかと思う。

三年間の間で、色々な問題が(合併とか)おきて、また一年の時のことが出てくるとは思わなかったし、結局あんまり答えも出せなかったなあと思う。一年のはじめと三年の終わりに、この題でできて楽しかった。ちゃんとした結果が出せないのは悲しかったけど、色々できて嬉しかった。

MT 3年間、あたしは社会が一番スキヤから楽しかったです。結局、三重は東海か近畿かわからなかったけど、こうして一つのことでもみんなの意見が聞けて楽しかった。他の授業ではない、みんなとの交流の場にもなれて良かったデスよ。社会の授業で考えさせられたことがたくさんあったけど、答えは1つとは限ってないし、楽しかった。藤森先生の授業は教科書にのっていないことも教えてくれた。だから“社会”に興味を持ったのかもしれない。

また、これから地元中学校を離れ、各自の人生を歩んでいく生徒達に、地域に愛着を持ち、将来地域の担い手になっていけるような生徒の育成もめざした。

1年生では、自分たちの郷土に対してあまり関心をもっていなかった生徒、三重=伊賀という

狭い認識しかもっていなかった生徒が、ただ「三重は関西か東海か」という導入教材に興味を持っただけの段階から、郷土の現状やかかえる様々な問題点について、様々な人の考えや願いにふれることができた。さらに3年生になり地方自治の学習の後、身近な話題であった「伊賀市合併」について、1年次の話し合いの中心であった「住んでいる人が納得できる分け方をして欲しい」について再度話し合ったことにより、これからの伊賀市および自分たちの生きる地域に愛着を深めることができるようになったと判断できる。これは以下の単元終了後の生徒の感想からも読み取ることができる。

FY 今のところは〇〇は好きやと思うくらいで、自分の意識でどれくらい愛着があるのかわからへんけど、将来この土地を離れて暮らすことがあれば、その時にわかるんやと思う。愛着は考えて見つけるものじゃなくて、本当はその時になってみやなわからんものかもしれへんし、感じて知ることができるもんやろと思う。

MA 私は自分の住んでいるところに愛着がある。今までずっとこの地域に住んできて、思い出とかいっぱいあるから、離れると思うとさみしいし、ここに生まれて、育ててよかったなあと思う。名前がない土地なんておかしいと思うし、かわいそうと思う。良い思い出も悪い思い出もあるけど、いつか一人暮らしとか始めることになったとして、久々に帰ってきた時、なつかしいなあとか思い出にひたたり良い気持ちになると思う。何年かぶりに帰ってきて、変わらない雰囲気と変わらない人達でいて欲しい。みんなもそんな気持ちでいて欲しい。

KA 自分では今住んでいるところに愛着はないと思っているけど、何年かして一人で都会に住むようなことになったら、昔のことを思い出してしまうと思う。愛着は実際遠くへ暮らしたりしないと感ずることはできないと思う。

三重は近畿関西か中部東海かに関しては、どちらの方がいいというのはないけど名前は必要だと思う。名前がなかったら自分はどこに住んでいるのか自覚がないようになると思うし、住んでいる気もしないと思う。

NH 三重は近畿と東海のどちらかに統一しなければいけないということは全然ないと思うので、そのまましておくのも悪くはないと思う。あいまいなままにしておいて、住民ひとりひとりが思い思いのことを持っているのが最善なんじゃないかなと僕は思う。

HM 私は、ここの伊賀にとっても愛着をもっています。引っ越しをする前は今まで住んでいたところを離れるのはイヤでした。そこが好きだったし、友達ともわかれなきゃならないし……。だけどこっちに引っ越してきて、はじめはここのことを何とも思っていなかったけど、中学校で、伊賀の郷土を調べたり、文化を知ったりもできて、ここにだんだんと愛着がついてきました。その歴史や郷土について調べることは、そのことを知ることができ、その魅力や自然のことなどを通して、これから住んでいく上で、自分につながっていくのだと思いました。

三重は近畿関西か中部東海というのは、1年生の時から考えていたけど、私はどっちかというところ、近畿関西かな？けれど、私はどちらでもいいと思います。なぜなら、どちらにもいいところはあるし、人それぞれ親しみを感じている方が良く思うからです。

もし私が、この伊賀から出ることがあれば、今日授業したところは、いつになっても忘れないかな？故郷って感じだし、親しみがあるし。引っ越ししたりするならば、またそこに愛着がつくのかな……。

この三年間、伊賀のことをよく知ることができたと思います。

V 指導についての分析

(1) 入学時、生徒の社会科認識

1年入学時に社会科に対する意識調査を実施した。主な結果は以下の通りであった。

<社会科は好きか> ……

好き14人 ふうつう7人 嫌い6人

<社会科で重要なことは> ……

言葉を覚える7人 調べる14人 考え話し合う6人

<今までの社会科の授業は> ……

先生が説明する20人 調べたり見学したりする13人 疑問について話し合う11人 (複数回答)

社会科を「好き」であるという生徒が多い。また、社会科で重要なことは「言葉を覚える」ことよりも「調べる」ことや「考え話し合う」ことであると認識している生徒が多い。が、今までの社会科の授業は「先生が説明する」ことが多かったことをあらわしている。特に「嫌い」と答えた生徒6人全員が今までの社会科の授業は「先生が説明する」と答えている。また、〈社会の学習は何のためにすると思いますか（記述式）〉という項目については、「知識を得るため」という内容を書いた生徒よりも「大人になったとき社会に役立てるため」という内容を書いている生徒の方が多い。

このことから、生徒は社会科の本来の目標である「公民的資質の育成」ということを感づいているようである。しかし、授業の実態は調べたり話し合ったりするよりも、教師が説明に終始することの方が多くようである。

このような生徒に対して、中学校3年間を通じ、生徒が自分で問題や課題を見つけ、自ら考え判断しながら、自ら解決していく資質や能力、すなわち問題解決の方法や学び方を身につけるとともに、問題解決の喜びを実感できるような授業を構想し続けたいと考えた。

(2) 生徒の社会科認識の変化と課題

社会科に対する意識調査〈社会科で重要なことは〉の意識変化である。

1年生4月(1A) ……

言葉を覚える7人 調べる14人 考え話し合う6人

1年生3月(1A) ……

言葉を覚える2人 調べる6人 考え話し合う19人

3年生3月(3B) ……

言葉を覚える6人 調べる8人 考え話し合う13人

3年間を通じて、筆者がめざした「考え話し合う」授業が生徒に定着したものと考えられる。ただここで興味深いのは3年生の3月になると、一旦1年生の3月で少なくなった「言葉を覚える」

という項目が再び微増していることである。この意識変化を示すような別のアンケート結果がある。

3年生3月 〈社会科は好きか〉 ……

好き17人 嫌い10人

【好きな理由】

- ・黒板に書いていって、みんなで話し合っていくのが楽しいから。
- ・みんなの意見を聞いていいと思う。
- ・学んでいて、色々な知識を身につけられておもしろいから。
- ・苦手だけど、授業は楽しくて好きだから。

【嫌いな理由】

- ・授業は好きだが、社会は嫌い。
- ・授業はおもしろいけど、覚えることが大変。
- ・覚えたりは嫌いだけど、考えたりは好き。
- ・覚えることがたくさんあるから。

3年生3月 〈藤森の社会の授業は好きか〉 ……

好き21名 ふつう4名 嫌い2名

【好きな理由】

- ・授業の中で出た意見をみんなで解け合って楽しいし、やる気が出てくるから。
- ・話し合ったりするのは好き。
- ・話し合ったりするのが良い。資料とかあってわかりやすいしおもしろい。
- ・今まで受けたことがないやり方で、いっぱいしゃべれる。
- ・覚える授業というよりは考える授業だから。覚えるだけなら先生がいなくてもできるけど、藤森先生の授業は深めることができるのでやりがいがある。
- ・自分の考えを素直に言えることができるから。
- ・ひとりひとりの意見を聞いて授業を進めてくれるから。
- ・授業で人の意見を聞いたり、書いたりして進んでいったから。
- ・授業は知識を詰め込むばかりじゃないから楽やし、みんなの意見が聞けて楽しい時もある。家に帰ってからの復習予習が大変だ。
- ・疑問に思っていることなどをみんなで話し合ってる授業が多いから。自分の意見を交えて考えることができるから。

- ・ふつうの社会の時間とは、少し違った感じで、ふつうに語句を覚えたりしているだけの授業よりは楽しいと思う。
- ・みんなで話し合い、一つの資料をみんなで見て、考え話すことがおもしろいから。
- ・型にはまった授業じゃなく、意見を言い合うのがおもしろい。
- ・他の先生と違い内容深く授業してくれるから。
- ・教科書にのっていないことも教えてくれるから楽しい。堅苦しくなくて、みんなの意見も聞けて自分の思ったことを自由に言えるところ。

【嫌いな理由】

- ・意見ばかり言う授業だからわかりにくい。難しい。
- ・要点がわかりにくい。

社会科が好きは63%・嫌いは37%という数字であるが、一方、筆者の社会の授業が好きは78%・嫌いは7%である。筆者の授業は好きという生徒よりも社会科が好きという生徒の方が少ない。これは、3年生の3月という高校入試が間近に迫った時期で、コメントにもある「覚えることが大変」ということが多いことから、やはり社会科では入試対策としていわゆる知識を覚えなくてはならないというプレッシャーがその数字に表れたものと考えられる。

また、「言葉を覚える」と書いた生徒の一人は「まず最低限は」という注釈をつけていた。社会科では「言葉を覚える」「調べる」「考え話し合う」これら3つの要素がすべて重要であり、調べたり考え話し合ったりする前提として最低限の知識が必要であると気がついたものと考ええる。「学んでいて、色々な知識を身につけられておもしろいから」のような感覚を持った生徒を育成、すなわち「調べる」「考え話し合う」と「覚える」ことが違和感なく両立するような授業の重要性・必要性を改めて感じる。

(3) 今後の授業の課題と方向性

次のアンケート結果を見ていただきたい。

3年生3月 <以前に受けていた授業との違い> ……

あり 24人 無し 3人

- ・他の授業は説明を聞いているだけでかなり退屈だけど、藤森先生の授業は何というか自由というか自分たちで授業の方向性を決めていく感じが楽しい。僕は滅多に意見を言わなかったけれど、聞いているだけでも楽しいときがある。
- ・他の先生はほとんど教科書の流れで授業するけど、藤森先生の授業は教科書にのっていないことを教えてくれる。
- ・ただ大事な語句を覚えるだけ(教科書授業)じゃなく、みんなの興味のわくような授業だと思う。みんなが考えることができると良いと思う。
- ・他の先生はいろんなことを教えてくれる感じだけど、社会は自分たちで考え、自分たちで進めていく感じがする。
- ・他の先生はこれ覚えろというけど、藤森先生の授業はそんなことは言わないで、みんなで世の中のことを言い合って授業をする点。
- ・教科書ばかりより退屈じゃないから良い。
- ・他の授業ではこんなに話し合わないし、黒板を消さないでノートをとりやすい。
- ・一つの話目を自分たちで話し合いをすること。
- ・一つのテーマをもとに問題をみんなで話し合っ、また出てきた問題をみんなで話し合っって色々な方向に広がっていくこと。
- ・自分の考えが持てていい。
- ・クラス全員で一つのことを話し合う点。みんなの思いが聞けて自分の考えも変わったりする。
- ・社会はみんなで話し合っって進めていく場であるから、積極的になれていいと思う。
- ・話し合ったりしないと、どういうことでそれが起きたとか理由がわからない。
- ・話し合っいで授業が進んじやって、話について行けない子もいたと思う。
- ・常に話し合い、みんなで授業している感じ。友達の見聞を聞くのは勉強になる。入試の時にどうなるか不安だったこともあった。もう少し知識を覚えることも必要だと思う。家で勉強したらいいねんけどなかなかやりたくならないので学校で覚える機会をつくって欲しい。
- ・他の学校の人が知らないようなこともたくさん知れた。
- ・資料を読んだりすることによって思ったことやその資料を見てどのような事を感じ取れるかなど考える力が身につくと思う。
- ・「自分で調査する」ことでしょうか。知識ばかり押し

こまないで、まず疑問に思った事などをみんなで話し合ったりする点。1年生の時は「自分で調査する」ということは、すごくいやで嫌いでした。けれど、学年が上がっていくうちに、それが反対に楽しくなったりしてきました。疑問に思ったことなどで話し合うときは、たまに相手の意見と合わなくて対立することもありましたが、そこが私的には楽しかったです。

3年生3月 <藤森の授業を受けて変わったこと> ……

あり 15人 無し 11人

- ・入試にも役立つ、自分で文をまとめたり考えたりする力がついてきたような気がする。
- ・テストの筆記問題がけっこう解けるようになった。マニアックな問題ができるようになった。
- ・疑問に思ったことを自分から調べたり、友達に聞いたりしたこと。
- ・調べたりするようになった。
- ・なんだろうと思うことがあったら、気がつくと考えている点。
- ・いろいろな視野で授業を受けられるようになったり、自分で思ったことが出せるようになった点。
- ・自分の考えを持てた。
- ・ものを深く考えるようになった。
- ・自分の意見を持つようになりました。積極的ではないのですが、自分の思っていることが言えるようになったりできました。
- ・発表することが少しできるようになった。
- ・少しは積極的になったところ。自分の意見が言えるようになった。
- ・積極的に取り組んだこと。
- ・授業を受けて、その後テレビで出ていたり自然と興味を持つようになった。
- ・人生観が変わった。
- ・今までは藤森先生みたいないい授業を受けたことがなかったけど、藤森先生の社会の授業を受けて、今まで以上に社会という授業に対して本当に良かった

と知っているし、もっと社会の授業の良いところを他の人に教えていきたいと思った。

「いろいろな視野で授業を受けられるようになったり、自分で思ったことが出せるようになった。」「知識ばかり押しこまないで、まず疑問に思った事などをみんなで話し合った。1年生の時は「自分で調査する」ということは、すごくいやで嫌いでした。けれど、学年が上がっていくうちに、それが反対に楽しくなったりしてきました。疑問に思ったことなどで話し合うときは、たまに相手の意見と合わなくて対立することもありましたが、そこが私的には楽しかったです。」「自分の意見を持つようになりました。積極的ではないのですが、自分の思っていることが言えるようになったりできました。」などから、筆者が3年間社会科の授業を通してめざしたこと、「生徒が自分で問題や課題を見つけ、自ら考え判断しながら、自ら解決していく資質や能力、すなわち問題解決の方法や学び方を身につけるとともに、問題解決の喜びを実感できるような授業を構想したいと考える」は、ほぼその目標に近づくことができたと思われる。

また、今回「入試にも役立つ、自分で文をまとめたり考えたりする力がついてきたような気がする。」と書いた生徒は、1年生の時のアンケートで「教科書を使わないこと、塾の先生に入試の時に困ると言われた、かなり心配。」と書いた生徒である。このような問題解決学習は、高校入試にも十分対応するものとして生徒の評価を受けたと考えたい。ただ前述したように、「調べる」「考え話し合う」と「知識を覚える」ことが違和感なく両立するような授業の重要性・必要性を改めて感じる。

*1 拙稿「三重県の地域的特色をとらえる中学校地理授業」(『中等社会科教育研究 25』2006)

*2 表中のイニシャルは生徒をあらわす。

*3 授業記録中のTは授業者である筆者、その他イニシャルは生徒の発言である。